

産学協働の研究拠点を設立

清水建設・東京科学大学 「建物アップサイクル技術」の確立を目指す

清水建設と東京科学大学はこのほど、既存建物の価値を最大化する「建物アップサイクル技術」の確立に向けて、産学協働の研究拠点「清水建設みらいの建築生産協働研究拠点」（拠点長＝吉敷祥一・東京科学大学教授）を東京科学大学に立ち上げた。

同研究拠点は、既存建物における構造体の再利用と外装リノベーションをテーマに建物アップサイクルに必要な技術開発を進めるもの。設置期間は2029年7月31日までの3年間。要素技術の確立に向けた研究を加速させるなど、これまで必

ずしも十分でなかった構造体の再利用と外装リノベーションの技術革新をリードしていく。

共同研究は、新築よりも低コストかつ短工期で、既存建物を高い資産価値と魅力を持つ建物へとアップグレード再生する新たな建築生産モデルの構築を目指す。従来の建設市場で常識となっていたスクラップ＆ビルドの発想を転換。柱・梁・床などの主要な構造体を再利用する技術と、外装リノベーションの技術を高度に掛け合わせることで、既存建物を新築にも劣らない構造性能、環境性能、意匠性

能を持つ建物へと生まれ変わらせる建物アップサイクルを実現する。

両者は、既存構造体の再利用と外装リノベーションを高度に融合させた建物アップサイクル技術を駆使して、従来の建て替えや改修に代わる新たな建築生産モデルとしての展開を目指す。今後、建材メーカーなどの積極的な参画を促すことで、新技術の開発を推進すると同時に、共同研究によって得られた成果や開発技術を早期に実際のプロジェクトに適用していく方針。